

平成29年度「第2回広島大学マスターズ講演会」報告

広大マスターズ会員 渡部和彦

平成29（2017）年度広大マスターズ講演会が、下記の通り開催された。

開催日時：2017年12月2日（土）13時から14時30分

開催場所：東広島芸術文化ホール「くらら」2階研修室（208・209）

講師：上 真一 先生（広島大学特任教授・広大マスターズ会員）

話題：「クラゲ四方山話：有毒クラゲから食用クラゲまで」

今回の講演会は、広大マスターズ会員でもある、上 真一先生（専門：生物海洋学）による、クラゲにまつわる興味深いお話を伺うことができた。「古事記」には、すでに「クラゲ」という言葉を見ることができるという古い歴史から、世界各国のクラゲの種類と生態に関する生物学的知見を詳しく紹介していただいた。クラゲを食材として珍重する中国では、積極的に養殖がおこなわれていることや毒を有する種類など、豊富なスライドで紹介された。

近年、我が国の漁業に深刻な被害をもたらした、マスコミでも大きく報じられた、「エチゼンクラゲ」の発生に関する調査研究についても紹介された。漁業被害を防ぐための漁網の改良工夫や、「エチゼンクラゲ」大量発生メカニズムについて、国際的な規模での調査研究プロジェクトの実態について説明があり、現在では毎年の発生規模の「予報」が可能となったことを力説された。上先生は、現在においても引き続きプロジェクトを主導し、黄海、東シナ海でのクラゲをフェリー甲板上から目視観測する調査を続けているとのことでした。

今後もクラゲによる漁業被害を防ぐために精力的に活動され、講演で強調された、「豊かな里海」作りのためにご活躍されることを期待したい。

定員44名の会場は、満席の状態でした。広大マスターズ会員はじめ、マスターズ友の会、一般市民の方など多くの参加者が参加された。講演終了後には、多くの質問が寄せられ、充実した講演会となった。なお、講演会の司会は、山本義雄先生でした。

（詳しい内容は、講演者による下記の講演概要をご参照ください）

クラゲ四方山話：有毒クラゲから食用クラゲまで

広島大学特任教授 上 真一
(広大マスターズ会員)

海水浴でクラゲに刺された人は多いでしょう。「エチゼンクラゲの大発生で網が破られた」とのニュースを見たこともあるでしょう。一方、水族館のクラゲコーナーでは「泳ぐ姿が美しい」と癒されたことでしょう。中華料理店では「コリコリしたクラゲの前菜が美味しい」と言う人もいるでしょう。クラゲには善悪の両面性が存在しています。

クラゲは主として刺胞動物門（サンゴやイソギンチャクの仲間）に属し、世界で約3千種、日本では約2百種存在します。クラゲは体重の約99%が海水で占められているゼラチン質動物プランクトンです。約5億年前のカンブリア紀に地球上に出現し（化石化したクラゲの証拠あり）、地球環境に順応して今日まで生き延びてきました。深海にも淡水（西条の溜池）にもいます。



日本最初の歴史書である古事記（712年）に、まだ形の定まらない日本の国土を「久羅下（クラゲ）が漂っているようだ」との記述があります。746年の木簡に「備前国から（食用）クラゲの貢ぎ物があった」との記録があります。クラゲは昔から日本人にとって馴染み深い存在であったようです。中国でも昔から正月や結婚式などの慶事にクラゲを食べる習慣があります。中国でのクラゲの需要は非常に高く、今では養殖も行っています。

一方、クラゲの大発生は漁業や発電所の操業に深刻な被害を与えます。特に世界最大級のクラゲであるエチゼンクラゲの大発生は大きな社会問題となりました。その後、広島大学が中心となって大型研究プロジェクトを展開し、このクラゲの正体を明らかにし、大発生の原因究明や対策に取り組みました。エチゼンクラゲは中国近海で春に生まれ、対馬海流によって夏・秋に日本沿岸に輸送されます。発生地である中国近海の環境悪化（温暖化、富栄養化、魚類の乱獲など）がクラゲを増やす原因になっていたのです。このクラゲはいつ大発生するか誰も予測できません。そこで広島大学のクラゲチームは、日本と中国を往復する国際フェリーに乗船し、デッキから輸送途上の若いエチゼンクラゲを黄海や東シナ海で目視観測し、発生規模の予測を行っています。今では毎年6・7月の時点でその年の発生規模を予報し、水産関係機関を通して漁業者に知らせています。それにより、漁業者はクラゲが来襲する1～2ヶ月前から適切な対策を取ることが可能になっています。

クラゲだらけの海を誰も望みません。海には常に美味しい魚が溢れてほしいと願っています。一方、クラゲ大発生現象は全世界に拡大しています。その原因は多様ですが、人間活動の高まりによる沿岸環境の悪化がクラゲを増加させている場合が多いようです。クラゲ大発生現象は勝つてし放題の人類に対する警告と捉えるべきでしょう。クラゲは脳がない生物なのですが、頭でっかちの人類に替わっていつか地球を征服しようと考えているのかも知れません。